

# 地域・社会との共生

快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、良き企業市民として、地域・社会の皆さまとの協働による共生活動を推進します。

## 重点 取組み



- 地域・社会の皆さまとの協働による共生活動の推進
- 重点テーマ「環境保全」「次世代層育成」「地域経済振興」に関する取組みの充実
- 従業員個人としての社会貢献意識啓発の実施

## 地域・社会共生活動の更なる充実へ向けた取組み

### 地域・社会共生活動基本方針

当社は創業以来、地域社会の発展と地域との信頼関係の構築が当社の持続的な発展の前提であるとの認識の下、さまざまな地域・社会共生活動に取り組んできました。

また、2006年4月に活動を行ううえでの指針として「地域・社会共生活動基本方針」を制定するとともに、部門横断的にマネジメントを行う推進体制として「地域・社会共生活動連絡会議」を設置し、全社最適の視点で更なる活動の推進に繋げていくこととしています。

#### 地域・社会共生活動基本方針

九州電力は、快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、以下の原則に基づき、良き企業市民として、積極的に地域・社会共生活動を推進します。

- 1 「地域振興」「文化・芸術」「スポーツ」「学術・教育」「社会福祉」「健康・医療」「国際交流」「環境保全」の分野で、魅力ある地域づくりや次世代層の育成などを行うとともに、地域・社会の課題解決に向けた取組みを行います。
- 2 当社の持つ経営資源を有効に活用した取組みを行います。
- 3 活動内容を公表し、皆さまとコミュニケーションを図ることにより、その声を諸活動に反映させるとともに、地域・社会の皆さまとの協働を進めます。
- 4 従業員が一市民として行う共生活動を支援します。

### 2011年度CSR行動計画における定量目標設定

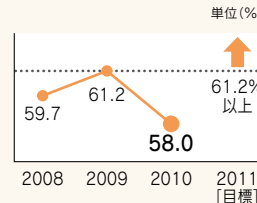
CSR行動計画において、お客さま満足度の向上を目標に掲げています。(P30参照)

- お客さま満足度調査のうち、次の2項目の「一般家庭」の満足度

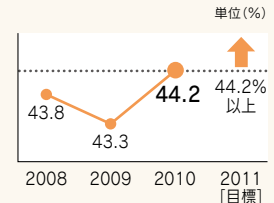
満足度：5段階評価のうち、「1. そう思う」、「2. まあそう思う」と回答した人の比率

【お客さま満足度調査結果】(グループ会社除く)

地域経済・文化への貢献



地域活動への協力



※目標値は、過去の最高値を設定

### 2010年度寄付金支出額実績

11億7,500万円

(環境会計に計上される費用を含む)

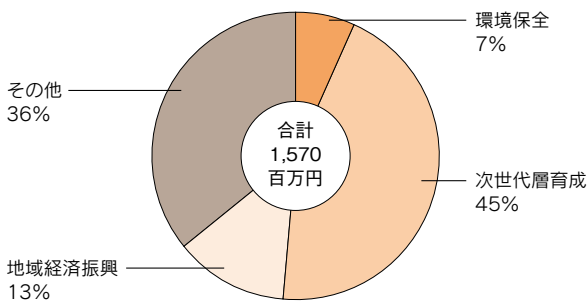
## 重点テーマ「環境保全」「次世代層育成」「地域経済振興」に関する取組みの充実

2010年6月には、地域・社会共生活動を通じ、地域社会が抱えるさまざまな課題の解決に取り組むことにより持続可能な社会づくりに貢献するため、アンケートや対話訪問活動等により抽出した「お客さまが当社に取組みを期待する分野」、「九州の地域課題」、「当社が果たしていくべき責任」を踏まえ、地域・社会共生活動における重点取組分野として「環境保全」「次世代層育成

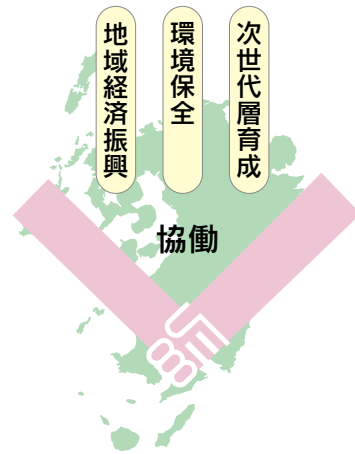
成」「地域経済振興」を掲げ、取組みを推進していくこととしています。

また、地域課題を的確に把握するためには、積極的に地域社会とのコミュニケーションを図っていくことが重要であるとの認識の下、地域と共に考え、共に行動する「協働」による取組みを通じた地域の皆さまとのコミュニケーションも推進していくこととしています。

▼地域・社会共生活動に関する支出内訳(2010年度)



※「環境保全」には、環境会計に計上されている社会活動(九州ふるさとの森づくり、地域環境活動支援)を含みます。



### 【環境保全の推進】

設備形成や運用など事業活動に伴い環境負荷を発生している電気事業者としての社会的責任を果たすため、低炭素社会づくりをはじめとする地域環境の保全に資する取組みを地域との協働により積極的に展開していきます。

▼2010年度の主な取組実績

- 地域との協働による「九州ふるさとの森づくり」(P49参照)
- 低炭素社会づくりをテーマとする地域プロジェクトへの参画

### TOPICS

#### 地域の低炭素社会づくりへの協力

自治体においては、低炭素社会づくりの意識の高まりから、電気自動車の普及や新エネルギー導入及び地域エネルギーマネジメントなどの取組みが始まっています。

特に電気自動車普及に関しては、国が指定するEV・pHVタウンに九州の3県(長崎、佐賀、熊本)が指定されています。

当社グループは電気自動車用の充電器などを開発・製造しており、また、メーカーとの電気自動車の実証試験などか

らの知見を活用し、各地域における取組みに参画し、協力しています。

また、低炭素まちづくりについても福岡市や北九州市等における取組みがあり、構想段階から参画することにより、より実効性のある低炭素まちづくりの実現に向け、支援しています。



## 【次世代層の育成】

持続可能な社会をつくるのは「人」とあるとの認識のもと、次代の九州を担う子どもたちの可能性拡大や、能力向上への貢献を目的とし、エネルギー・環境問題への関心喚起を中心とした次世代層育成の取組みを展開しています。

### ●九州パワーアカデミー

九州域内の大学・高専及び企業が一体となり意見交換を重ね、電気工学を支える技術者・研究者の育成や研究開発の促進を図る目的で2009年6月に設立しました。

具体的には、

- 企業と大学・高専との意見交換、交流会の開催
- 電気主任技術者の育成(電験2種受験対策講座の開催)
- 研究者による特別講演、シンポジウムの開催
- ものづくりによる次世代層の育成(電気工作教室の開催)

などを行っています。



九州PAフォーラム2010(2010年10月29日)

### ●九州地域の高度ICT(情報通信技術)人材育成

情報通信本部では、部門の持つ技術やノウハウを活用し、九州地域の学生に対して高度な情報通信技術の実践習得を支援しています。

具体的には、九州経済連合会の先導的ICT人材育成施策と連携し、九州工業大学、九州大学からの学生を長期間受け入れ、通信ネットワークの設計や評価といった当社の実際の業務を担当しながら、高度な技術やノウハウを取得するための教育を行っています。

また、北九州市などが主催する情報通信技術活用実験に毎年参加・協力し、参加学生に対して技術的な実践指導を行っています。

#### プロジェクトに参加して

九州工業大学大学院  
窪園 晃一 さん



社内業務の基盤となる社内電子通信システム更新のプロジェクトに参加させていただき、非常に光栄でした。

また、仕様の検討や製品確認の打ち合わせ等に参加した際に、積極的に質問することの大切さと主体性を持って行動することの重要性を身をもって感じる事が出来、大変貴重な経験となりました。

## TOPICS

### 家族新聞コンクール(熊本支社)

熊本支社は、魅力ある地域づくりや次世代層の育成を目指し、さまざまな文化支援活動を行っています。

この家族新聞コンクールもその一環として実施するもので、今回で13回目の開催となり、2010年度は、熊本県内在住の小・中学生の皆さんから、過去最多の1,906点のご応募をいただきました。

家族の絆を強め、現代社会の希薄になった人間関係を見つめ直すきっかけになればと願っています。

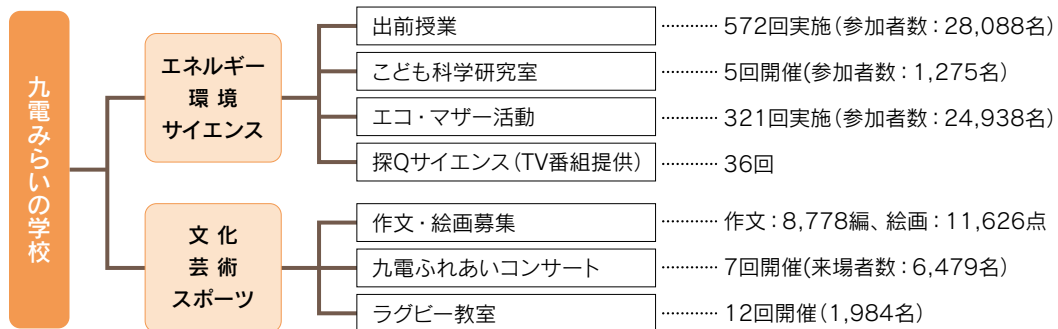


～次世代層支援プロジェクト「九電みらいの学校」～

九州の子どもたちに、エネルギー・環境や文化・芸術等に関する学びや出会いの場を提供し、子どもたちの好奇心を刺激するとともに感性を豊かにすることを目的に、九州各地で様々な活動を展開しています。



【2010年度活動実績】



● エネルギー・環境・サイエンス

将来を担う次世代層を対象に、当社社員が学校等を訪問し、電気をつくる仕組みや省エネ、環境等について授業を行う「出前授業」や、大学教授による科学実験や著名な若手科学者が体験型授業を行う「こども科学研究室」など、エネルギー・環境問題等への関心を育てる様々な活動を行っています。



こども科学研究室

● 文化・芸術・スポーツ

作文募集や絵画コンクール、ふれあいコンサートや音楽発表会など、九州全域で地域に密着した活動に取り組んでいます。

● 九電ふれあいコンサート ～みんなのクラシック～

親子を対象とした本格的なクラシックコンサートとして、九州唯一のプロオーケストラである九州交響楽団による「九電ふれあいコンサート ～みんなのクラシック～」を毎年夏休み期間中に九州各県で開催しています。

「本物の音楽を子どもたちへ届ける」をコンセプトに、有名なソリストと厳選された楽曲で、生のオーケストラの迫力をお伝えします。



九電ふれあいコンサート

ラグビー部「キューデンヴォルテクス」の地域共生活動

当社の「シンボルスポーツ」と位置づけるラグビー部では、地域の皆さまから愛され、親しまれるチーム創りを行うとともに、各地域の少年ラグビーチーム等への指導やイベントへの参加など、ラグビーを通じた地域スポーツの活性化に取り組んでいます。

ラグビー教室(於: 鹿児島)



## 【地域経済振興への協力】

人口減少社会においても持続的に発展する地域経済の確立を目的とし、産官学で連携して行う地域プロジェクト等に、当社のノウハウを中心とした経営資源を積極的に活用し協力していきます。

### ● 地域活性化・地場産業支援

各支社において、自治体等との協働によるより良いまちづくりに向けたシンポジウムの開催や、地域に根ざした地場産業の振興のための物産展の支援など、地域の活性化に資する活動を展開しています。

#### TOPICS

### まちづくりシンポジウムin武雄 ～癒しと健康のまち「武雄」を目指して～（佐賀支社）



佐賀支社では、「癒しと健康のまち『武雄』を目指して」をテーマに、温泉を活かした武雄市の活性化を考えるシンポジウムを開催し、当日は武雄市民の皆さんを中心に約300名の方にご参加いただきました。

基調講演では、日本全国、世界23カ国の温泉を巡ったエッセイストの山崎まゆみさんから、武雄の温泉街を元気にするためのコンセプトについて、「大正ロマンはどうか」と、楽しいご提案をいただきました。

その後のパネルディスカッションでは、樋渡啓祐武雄市長やJTB九州佐賀支店の藤本健輔支店長、NPO法人さがが市民活動サポートセンターの中村直子さんが登壇し、武雄市の活性化策についてそれぞれ持論を展開し、議論を深めました。



まちづくりシンポジウムin武雄(佐賀支店)

#### TOPICS

### 九州の観光、食の魅力を首都圏にPR（東京支社）



九州の観光と物産を首都圏にPRする「来て見て食べて感動！九州観光物産フェア」に他の九州の企業とともに協賛しています。

10年度は例年のご当地グルメや観光スポットの紹介に加え、3月12日に全線開業となった九州新幹線のPRコーナーも設けられ、多くの人を集めていました。

九州新幹線  
PRコーナー  
(於：東京  
代々木公園)



### ● 伝統工芸産業支援

当社では、「若手工芸家国内外派遣研修制度」(2010年度までに52名を派遣)による伝統工芸に従事する若手工芸家の育成や各地域における展示会、親子陶芸教室の開催など、各種の支援活動を行っています。

今後とも、九州の伝統工芸技術の維持継承と保存、また、九州の貴重な地場産業のひとつである伝統工芸産業の支援及び産地の振興を図るため、積極的な支援を行っていきます。

#### TOPICS

### 波佐見・三河内焼 現代の匠展（長崎支社）



長崎支社では、長崎の陶磁器の二大産地である波佐見焼、三河内焼を全国にPRするため、全国から長崎に観光客が集まる「長崎ランタンフェスティバル」開催中に展示会を実施しました。

当日は、作品の展示だけでなく、波佐見焼振興会や三河内陶磁器工業

共同組合の方々の協力により、製造工程の一部実演を行い、伝統工芸に興味を持っていただく機会を提供しました。

実施した3日間では、県内外から約2,500名の方々にご来場いただき、盛況な展示会となりました。



## 地域に密着した共生活動の推進

地域社会の一員である企業市民として、果たすべき役割を着実に果たすとともに、地域の皆さまとのコミュニケーション活動の一環として、地域に密着した文化活動の実施や地域行事への積極的な参加を行うこととしています。

### ● 地域のまつりへの参加

地域文化保存の一環として、また、地域の皆さまとの絆を深めるため、各事業所やグループ会社の社員が地域のまつりへの参加・運営を行っています。

#### ▼2010年度 まつり参加実績

- 参加者数：延べ約3,800名



おはら祭り(鹿児島支社)

### ● 地域のスポーツ大会への支援

地域におけるスポーツ活動の活性化及びレベルの向上を図り、明るく健康的な地域社会の形成を目指して、青少年を対象としたスポーツ大会等の支援を行っています。

#### ▼2010年度 スポーツ大会支援実績

- 80事業所、100大会、20種目、参加約46,000名



事業所大スポーツ(福岡支社)

### ● お茶の間論文・エッセイ募集

各支社と地元新聞社との共催で、様々なテーマについて自らの体験や出来事を綴ったエッセイの募集を行いました。(2010年度で終了)

#### ▼2010年度 お茶の間論文・エッセイ募集実績

- 応募作品数：8,463編



「お茶の間エッセイ」作品集(長崎支社)

## グループ会社における取組み

九州電力グループは、グループの行動憲章として「事業活動や社会貢献活動を通じ、地域・社会の皆さまと協力し、その発展に積極的に寄与する」と掲げ、社会的課題解決へ向けた事業活動の展開や次世代層支援への取組み等、様々な形で地域社会の持続的発展に向けた共生活動を推進しています。



### TOPICS

#### 「森の講話」の出前授業 ～九州林産の取組み～

当社グループ会社の九州林産では、地域の小学校に出向き、木が果たす役割や森の大切さなどについて楽しく学べる「森の講話」を実施しています。

講話では、日本は面積の約7割を森林が占めており、世界有数の森林国であることや、森林が水を蓄えたり土壌流失を防いだりする機能を備えている

こと、更には地球温暖化など様々な環境問題と森林との間には密接な関係があることなどについて、社員手作りの実験装置や図解等を用いて、分かりやすく紹介しています。

同社では、今後も森の大切さや環境保全などの情報を積極的に発信していくこととしています。



## 従業員が行う共生活動への支援

従業員が積極的にボランティア活動に取り組めるよう、ボランティア休暇制度(年間7日間)や活動費用補助、掲示板等での情報提供などの環境づくりを行うとともに、ボランティア活動を円滑かつ効果的に行うための社会福祉に関連する従業員の資格取得について、受験料・受講料、交通費を支給するなどの支援を行っています。

### ▼主なボランティア啓発制度

- 有給のボランティア休暇制度(年7日)
- ボランティア活動費用補助
- 地域社会貢献者表彰
- 社会福祉関連取得費用補助

「地域社会貢献者表彰制度」では、長年にわたり地道に地域社会への貢献活動を行っている従業員を表彰しています。

また、2011年度からCSRに関する社内情報発信を開始するなど、さまざまな支援や制度、取組みを通じ、従業員の社会貢献に対する意識啓発を行っています。



社内向従業員意識啓発資料

## TOPICS

### ボランティア講演会の実施 ～熊本支社の取組み～

熊本支社では、2006年度から支社内の従業員のボランティア意識の向上を目的に、体験型のボランティア講座を実施しています。

2010年度は、熊本YMCA職員介護福祉士を講師にお招きし、「寝たきりだって、楽々介護」をテーマに寝たきり介護の難しさやコツを学びました。

この講座がボランティア意識の啓発に繋がることを期待し、今後もこのような体験型のボランティア講座を実施していきます。



## 事業活動を通じた取組み

### 電気の利便性を活かした農業技術の開発

総合研究所では、生物資源研究センターを核として、農業電化の普及による地域振興支援を目的に、農業分野へのヒートポンプ適用、光利用・栽培環境調節・植物工場技術など生産性向上に関する研究及び農産物の鮮度保持技術の研究等に取り組んでいます。

#### ● 農業分野へのヒートポンプ適用

省エネ技術として産業分野及び家庭用を中心に普及が進んでいるヒートポンプを農業分野の暖冷房空調に採用した温室栽培の研究に取り組んでいます。

今後は、作物の品質向上対策としての夏季夜間冷房や除湿利用の研究、農業向けヒートポンプ高効率化の研究等を行い、省エネ・高品質栽培技術の確立とCO<sub>2</sub>の削減を目指します。



洋ラン栽培におけるヒートポンプ利用栽培

#### ● 農産物の鮮度保持技術

低温貯蔵やCA貯蔵(貯蔵庫内の空気組成を低酸素・高炭酸ガスに調節)の利用により、九州特産青果物の出荷調整が可能となります。



農産物貯蔵装置

● 光利用、栽培環境調節、植物工場などの技術

食の安全や安定供給に対する関心が高まる中、周年、計画生産が可能な植物工場が注目されています。当社は、農業電化研究の一環として1988年から植物工場に関する研究を実施しており、これまでに得られた

環境調節(温・湿度、炭酸ガス、光等)、栽培自動化、光利用、省エネ空調等の技術・ノウハウを基に、社内外に広く技術コンサル活動を展開しています。



野菜工場 (1988~2005年、写真：太陽光利用型)

省エネ・高品質を目指した植物生産システム (高効率照明・空調)

養液栽培によるアイスプラント(吸塩植物)の特産野菜化(周年安定生産のための培地冷却・加温)

養液栽培によるパプリカ長期栽培

TOPICS

「地域の安全と安心の確保」と「人と多様な生物の共生」をめざして  
～耳川水力整備事務所の取組み～

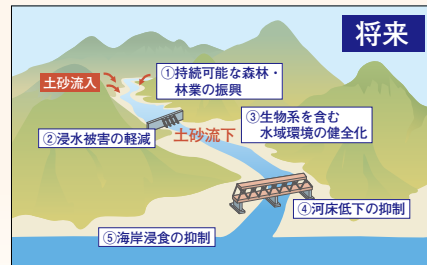


宮崎県北部に位置する耳川流域では、急峻な山々と豊富な水に恵まれ約80年前から水力発電の開発が行われており、上椎葉発電所を代表とする7つのダム・水力発電所群は、出力・発電量とも、当社一般水力の約1/4を担う主要電源となっています。

2005年の台風14号による記録的な降雨の影響で、山の斜面の崩壊や過去最大の浸水など土砂に起因する甚大な災害が発生し、これを契機に流域関係者が一体となって「地域の安全と安心の確保」と「人と多様な生物の共生」をめざした様々な協働の取組みを進めています。

この中で耳川水力整備事務所は、ダム設

置者として、河川の安全、水の利用及び環境保全の観点から、ダムの改造を行い、ダムにおける土砂流下を継続的に実施・改善していく取組みなど、これらの協働の取組みに対し積極的に参画しています。



地域社会が描いた「よい耳川」のイメージ

■ 土砂流下を行うためのダムの改造



山須原ダム(改造前)



山須原ダム(改造後イメージ)

TOPICS

東日本大震災支援 ポータブル電源装置の貸出



総合研究所は、日本赤十字社青森県支部からの貸出要請に基づき、同研究所が開発したポータブル電源装置7台を被災地の臨時医療施設で空調や照明用の電源として提供しました。

このポータブル電源装置は、リチウム電池応用技術を有効活用したもので、騒音や排気がなく、自家発電機と同じように安定して電力供給できるため、円滑な医療サービスの提供にお役立ていただきました。

【ポータブル電源装置貸出の内容】

貸出先	日本赤十字社青森県支部
貸与装置	大容量タイプ (1台、出力6kW、容量10kWh)
	キャリアタイプ (5台、出力1.1kW、容量1kWh)
	照明灯タイプ (1台、容量1.2kWh)
貸出期間	2011年4月1日～7月30日

